

令和2年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸小学校
実施日	令和3年2月2日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価」についての評価の説明及び学校の考えの欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	・特色ある学校づくりのために、概ね組織的・計画的に取り組むことができているが、校務分掌組織の更なる機能化を図りたい。 ・コロナ禍においても学校として創意工夫しながら組織的・計画的に取り組むことができている。	A	・学校だよりに教育活動や児童の様子がわかりやすく掲載されており教育目標に向かって取組の様子が伺える。 ・ランドデザインで共通理解を図ることができる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・事故やトラブル等に対しては、「一人で抱え込まない」という雰囲気での組織的対応、全教職員での情報共有がされているとともに予防的対応についても組織的に対応できている。 ・コロナ禍においても計画的に避難訓練等が実施できている。今後も様々な災害を想定して危機管理マニュアルの見直し、訓練等の実施に取り組む必要がある。	A	・新型コロナウイルス感染症予防対策、対応等校長をはじめ全職員で協力しながら会議やメール等で迅速に対応されている。 ・マニュアルの定期的な見直しや共通理解を図ることによって児童の命が守られている。また、情報が共有されており、組織的に対応されている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	・行事の精選と内容の見直し、出退勤管理、定時退勤日の設定、電子化等に取りかかり、勤務体制の工夫改善を推進している。 ・児童と向き合う時間の確保のため、今後も働き方改革を推進していく必要がある。	B	・課題ではあるが、教職員の心身の健康を維持できるように努力してほしい。 ・児童一人一人に向き合おうとすればするほど仕事は増える現実がうかがえる。行事の精選も含め、仕事の見直しをしないと仕事量は減ることがない。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	・研究推進委員会を中心として全面実施となった学習指導要領に基づき、学校研究に臨み、「学び合い」の方法について研修を深めることができた。 ・児童一人一人に寄り添った授業を推進していくためには、日頃から教職員相互が授業を見合い、指導方法を共有し、指導力向上に努める必要がある。	A	・学力に合わせ個別・少人数指導を実施され、丁寧に工夫しながら授業を行っている。 ・定期的な校内研修が行われ、教員が学び合いながら練り直し、話し合うという振り返りが行われている。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	・温かな人間関係づくりを基盤とした学級経営をはじめ、道徳、特別活動や特別支援教育と関連させながら、豊かな心を育む授業を実施している。 ・少人数指導やチームティーチングの活用等、個に応じた指導方法と評価について、今後も研修を深める必要がある。	A	・少人数指導や支援員の協力等、豊かな心を育むための授業の実践を行っている。 ・あいさつ、正しい言葉遣いできている児童が昨年より増えていることから豊かな心が育てられていることがうかがえる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	・教職員自身が児童の手下として、挨拶や言葉遣い、児童への接し方等に気を付けている。 ・挨拶は、改善がみられるものの、コロナ禍もあり、本校の課題でもあるので、今後も全校児童で取り組める活動を考えていく。	B	・児童の授業態度がよく、日頃の指導の積み重ねが感じられる。感染予防の指導もしっかりされている様子が伺えた。 ・あいさつ、正しい言葉遣いについては少しずつよくなっていると思われる。しかし数値的には他の項目より低いことからもう少し工夫が必要と思われる。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・倫理確立委員会の委員が交替で、毎月のチェックシート・関連資料を作成、配布、説明等を行ってきた。教職員間で日々の言動を振り返り、不祥事防止に取り組むことができた。 ・教職員一人一人が自分事としてとらえ、不祥事根絶に取り組めるよう、今後も研修を深めていく必要がある。	A	・倫理確立委員会を通して職員間で情報の共有を行い、倫理の向上を図っている様子がうかがえる。 ・不祥事防止の徹底が図られている。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている。	A	・担任のみならず、多くの教職員が連携し指導を行い、児童に寄り添った指導ができている。 ・児童一人一人の違いを認め、大切にすることはできているが、様々なニーズに対応するため、今後もさらなる保護者や関係機関との連携が必要である。	A	・教員が「子どもありき」の視点の下、児童一人一人に寄り添い大切にしている様子がうかがえる。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	・ユニバーサルデザインを意識した教室掲示を実施することで、誰もが安心して学校生活を送ることのできる教室環境を整えることができた。 ・今後も一人一人のニーズに応じた支援が行えるよう、特別支援教育体制の充実を図りたい。	A	・特別支援教育について、児童への指導や環境理解等体制の充実が図られている。 ・支援員を配置し、丁寧な支援に努めている様子がうかがえる。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・安全点検をはじめとした日常の点検により、素早く修繕等に取り組む、教育環境が整備されてきた。 ・コロナ禍もあり、さらに安心安全な環境づくりを目指し、保護者や地域とも連携しながら、環境整備に努めたい。	A	・校内や校庭が整備され安全な環境づくりが図られている。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	・マメールの活用により、防犯や新型コロナウイルス関連情報等、迅速に情報を家庭に提供することができた。 ・今後も学校だよりや学校ホームページを活用し、学校での児童の様子等を家庭・地域に提供し、開かれた学校づくりをさらに推進したい。	A	・学校だよりやホームページ等でこまめに家庭や地域に情報提供されている。特にマメールは効果的に活用されている。 ・マメールを活用して迅速に連絡が行われている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	・コロナ禍により、例年より回数は減少したものの、ゲストティーチャーを招いての学習を通じ、児童の興味・関心を引き付け、理解を深めることができた。 ・保護者による消毒・清掃ボランティアにより、清潔で安全な環境を整えることができた。	A	・今年度はコロナ禍のため、地域の人材活用が計画的に行えなかったと思われるが、その中でもできることとして、地域の方、保護者の協力は十分得られたと思われる。 ・清掃・消毒ボランティア等、よく協働できた。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	・コロナ禍により、直接の交流は困難であったが、小中一貫教育の視点に立った教育活動については、前進している。今後も坂小⇄坂中相互の連携を緊密化させていきたい。 ・小中の情報交換会についても目指すべき姿を明確にして、成果を指導に生かすようにしたい。	B	・積極的な取組がされている。 ・コロナ禍の中交流を行うことができなかったが、小中連携推進対応教諭を活用した情報共有は行うことができた。